

CO₂削減へ企業が森づくり

石 岡

坂東の岩井化成、あす植樹祭

地球温暖化防止対策として、企業などが排出する二酸化炭素(CO₂)を新たな植林や森林整備を通じて吸収する「カーボンオフセット事業」に坂東市馬立南台の合成樹脂再生加工会社「岩井化成」(清水弘社長)が取り組むことになり、現場となる石岡市柴内の民有林で26日に植樹祭が行われる。森林の育成、管理はつくばね森林組合(木崎眞組合長)が請け負い、風人(かせひと)茨城環境力カウンセリング協会による森林認証「風人(かせひと)の森」取得第一号を目標として事業を展開する。

(小石川哲也)

いふづの森」と名づけ、当面、1畝の用地にナラの木を1500本、サクラを80本植樹することにしており、毎年植林を続けることで5年をめどに同社の排出するすべてのCO₂を吸収する森づくりを進める方針だ。

「風人の森」を認証する「風人茨城環境力カウンセリング協会」によると、認証要件には、CO₂の排出、吸収量の適正な把握や、森林の10年以上の存続を契約や管理計画で明

確にすること、地域に広く開放された運営計画の設定など、一定のハードルがあるほか、4年ごとに更新審査が必要という。

植樹祭に先立ち、朝日里山学校で清水社長、横田凱夫市長、木崎組合長らが調印式を行って事業のスタートを宣言する予定だ。

同社はポリエチレンのリサイクル事業を通じて循環型社会に貢献。ゴミ袋「ファミリ

ーパック」をはじめ、使用済みの農業用ハウス素材から作ったエコマーク認定品「農強タストパック」など、日常生活に欠かせないゴミ袋を生産販売している。

今回、企業による直接的なカーボンオフセット事業に取り組むことで、ゴミ袋生産時に排出するCO₂量を吸収する森をつくり「日本」で排出したCO₂を日本の森を増やすことで吸収する「企業の森づくり」を始める「(清水社長)という。

カーボンオフセット事業は海外での植林、風力発電など地球規模で展開し、数値上、CO₂の排出量と吸収量を相殺したり、排出し

たCO₂量を資金のやり取りで吸収してもらう形にするのが主流だが、同社が取り組む事業はCO₂を排出した企業が直接、植林や森林整備を進めて事業を展開する「ダイレクトカーボンオフセット」。

しかも同じ県内での事業展開で、県南地域の森林整備にも貢献するほか、同社の製品を購入した消費者が実際に森を訪れて確認することもできる。

同社では「清風(せ